

令和5年度

学校関係者評価報告書

学校法人 M G L 学園

高崎動物専門学校

学校関係者評価委員会

令和6年6月6日

1. 学校の現況

学校名 学校法人MGL学園 高崎動物専門学校

所在地 群馬県高崎市岩押町 5-4

設置学科 商業実務専門課程 ペットビジネス学科 定員 192 名

愛玩動物看護師学科 定員 144 名

文部科学省認定 職業実践専門課程・高等教育の修学新支援制度対象機関

厚生労働省認定 専門職業教育訓練

群馬県指定 愛玩動物看護師養成所（法第 31 条及び法附則第 2 条）

2. 学校の特徴

①群馬県内のペット業界の要望に応じて、群馬県初の動物専門学校として設立

②ペット業界の代表団体である全国ペット協会と連携して、ペット業界が求める人材を育成しようと努力している

③MGL学園附属動物高度医療センターやペットショップを持ち、実践的な実習を行っている

④卒業生のペット業界へ就職する割合が高い。この分野の有名人を輩出している

⑤世界のトッププロが毎年来学し講演等をおこなうので、世界のトップの技術及び人間性に学生が直に触れることができる

⑥獣医師の専門医団体「LIVES」との連携により、実践的かつ質の高い動物看護師教育を行っている

3. 学校の教育理念・目標

基本精神

「共存共栄」

M i s s i o n (使命)

「業界に必要とされる人材を輩出し、動物業界の発展・繁栄に寄与する」

行動指針

「M」マナー…礼儀正しさ

「G」グリット…やり抜く力

「L」リーダーシップ…思いやり・模範を示す

教育目標

「利他の人」…人の役に立つ人材に

「積極的な人」…自ら考え行動できる人に

「夢を持つ人」…専門性を生かし活躍できる人に

I 評価結果

高崎動物専門学校は、専修学校設置基準・高等教育の修学支援新制度（高等教育の無償化）認定要件・職業実践専門課程認定要件・専門実践職業訓練認定要件をはじめ、愛玩動物看護師法第31条及び法附則2条の養成所指定基準など、関係法令に適合している。

総合評価

高崎動物専門学校は、専門技術校として必要な施設・設備・人材・教材を十分に備えており、業界のニーズに合ったカリキュラムで伸びしろの大きな人材を輩出している。

特に技術の習得に欠かせない飼育動物が豊富で、しっかりとした実技実習ができることや、学園附属の動物高度医療センターやペットショップを持ち、企業任せになってしまいがちな実地研修を学校主体で行えるため、体系的に学生を育成することができている。

また、学生・教職員全員にタブレット端末や Web ポータルを導入するなど情報システム化を推進し、教育環境の改善だけでなく業務効率化による教職員の働き方改革も推進している、と評価する。

主な優れた点

- 第2回愛玩動物看護師国家資格試験において群馬県内はもちろん、北関東においても最多合格者数を達成し、地域の動物専門学校のリーダー的存在となっている
- ペット業界との連携が良く取れており、教育課程が当該職業分野の期待に応えるものとなっており、高い就職率や資格取得率、さらに就職後の活躍にも繋がっている
- 学生全員にタブレット端末を配布し、Web ポータルを導入するなど、情報システム化を推進している
- 多数の卒業生がペット業関連企業で活躍するとともに、国際的なコンテストで複数の卒業生が優秀な成績をあげるなど、優れた学修成果をあげている
- MGL学園附属動物高度医療センターの施設設備を利用して、地域の動物病院の獣医師や動物看護師を対象に、アメリカの専門医の資格を持った獣医師などのセミナーを定期的開催し、地域の動物医療の発展に寄与している
- 群馬県動物愛護センターで、保護動物のお世話やボランティアトレーニング、子猫の人慣れ活動などのボランティアを行っている

主な改善を要する点

- 全学協力体制の確立
- 情報システムの有効活用
- 教職員研修の各教職員自身の振り返り

更なる向上が期待される点

- MGL学園附属動物高度医療センターの更なる有効活用
- ピアサポートの更なる発展

Ⅱ 基準ごとの評価

基準1 教育理念・目標

- 1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。
- 1-2 学校における職業教育の特色は何か。
- 1-3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
- 1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。
- 1-5 教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

【評価結果】 基準1を満たしている。

【優れた点】

- 学校の教育理念、教育目標が明確になっており、専門性の高い教育ができるように、教員同士積極的に考え行動している。
- 理事長がペット業界の代表団体「全国ペット協会」において常務理事を務めるため、業界のニーズをいち早く理解し、カリキュラム・教育に反映できている。
- 高度化・多様化する獣医療環境に対応すべく、動物高度医療を身につけた愛玩動物看護師の育成を目指した教育環境を整えている。

基準2 学校運営

- 2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか。
- 2-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか。
- 2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明文化されているか、有効に機能しているか。
- 2-4 人事、給与に関する規定等は整備されているか。
- 2-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。
- 2-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。
- 2-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。
- 2-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【評価結果】 基準2を満たしている。

【優れた点】

- Web ポータルを導入したことで、出欠管理、情報の共有が学生・教職員間でスムーズに行われるようになったことなど、情報システム化により業務の効率化が計られている。
- 顧問弁護士、税理士、社会保険労務士と第三者機関による労務管理・財務管理の監督・相談窓口が設けられていることで、コンプライアンスに則った学校経営が行われている。
- 学生・教職員は1名1台タブレット端末を給与され、情報システム化により業務が効率化されている。

【改善を要する点】

- 各種システムの導入はなされているが、有効に活用できておらず、業務の効率化につなげられていない部分がある。

基準3 教育活動

- 3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。
- 3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。
- 3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。
- 3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。
- 3-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。
- 3-6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか。
- 3-7 授業評価の実施・評価体制はあるか。
- 3-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。
- 3-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。
- 3-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。
- 3-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。
- 3-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。
- 3-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。
- 3-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか。

【評価結果】 基準3を満たしている。

【優れた点】

- 全国ペット協会や獣医師の専門医集団 LIVES などの業界団体や、日本動物専門学校協会などと連携し、カリキュラムの編成や外部評価を行っていることにより、業界のニーズに合った教育活動ができている。
- 学園附属の動物高度医療センターやペットショップを持つ事により、実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。
- 日本能率協会の研修や質保証機構のFD/S D研修にも参加しており、教職員1人1人のスキル向上を図っている。
- 教育活動に関する情報公開が適切にされているので、入学希望者が安心して進学できる。

【改善を要する点】

- 教職員研修で行ったことを、研修後も一人一人が実践的に行い改善に繋がっているかの振り返りが必要である。

【更なる向上が期待される点】

- 海外特別講師によるセミナー・動物高度医療セミナーなどを開催しているが、教職員の知識・技術向上としては活用しきれていない部分がある。

基準4 学修成果

- 4-1 就職率の向上が図られているか。
- 4-2 資格取得率の向上が図られているか。
- 4-3 退学率の低減が図られているか。
- 4-4 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

【評価結果】 基準4を満たしている。

【優れた点】

- 第2回愛玩動物看護師国家資格試験において群馬県内はもちろん、北関東においても最多合格者数を達成した。
- キャリアセンターができたことで、学生への指導やコミュニケーションをとりやすくなり、これまで以上に就職支援をする環境が整ってきている。

【改善を要する点】

- 学生との懇談、親への連絡など実践はされているが、必ずしも結果に直結していないため、対応の仕方を常に模索している。

基準5 学生支援

- 5-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか。
- 5-2 学生相談に関する体制は整備されているか。
- 5-3 学生に相談する経済的な支援体制は整備されているか。
- 5-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。
- 5-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか。
- 5-6 学生の生活環境への支援は行われているか。
- 5-7 保護者と適切に連携しているか。
- 5-8 卒業生への支援体制はあるか。
- 5-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。
- 5-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。

【評価結果】 基準5を満たしている。

【優れた点】

- 学修アドバイザー（教務課）と就職課が連携し、学修に関する相談や学校生活に関する相談、就職の相談や支援などきめ細やかな対応を行っている。
- 保護者 Web ポータルを運用するなど、保護者と適切に連携している。
- 専門実践職業訓練を行っているので、社会人が学びやすい体制を整えている。

【改善を要する点】

- 学生の健康管理について、心理カウンセラーがいると良いが、なかなか適任がいないので、看護師免許を持つ教員が対応しているが、専門家ではない上に他の業務もあるため、対応に限界がある。

基準6 教育環境

- 6-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか。
- 6-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。
- 6-3 防災に対する体制は整備されているか。

【評価結果】 基準6を満たしている。

【優れた点】

- 専修学校設置基準はもちろん、職業実践専門課程・高等教育の修学新支援制度対象機関・専門実践職業訓練・愛玩動物看護師国家資格養成所の基準も満たしている。
- 物高度医療センターをはじめとした学校内の施設だけでなく、ペットショップ実習施設ワルツやさいとう動物病院との連携により学生が充実した授業を受けられる環境設備の整備・確保を行っている。

【更なる向上が期待される点】

- NEXTGIGA を想定し、今後はより一層の通信ネットワークの整備が必要となる。

基準7 学生の受け入れ募集

- 7-1 学生募集活動は、適正に行われているか。
- 7-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。
- 7-3 学納金は妥当なものとなっているか。

【評価結果】 基準7を満たしている。

【優れた点】

- 学生募集要項にはコースごとに必要学費がわかりやすく明記されており、学費の面において進学希望者が計画的に進路決定できるようになっている。
- オープンキャンパスでは本校の充実した施設設備を活かした体験実習を多数開催し、県内隣県のみならず遠方からも数多くの入学対象者が参加した。
- オープンキャンパスでは MGL 学園附属高度動物医療センターを活用した体験実習を行っており、入学後の実習授業イメージがしやすいものとなっている。

【改善を要する点】

- 一部の入学選考において、早めに定員となってしまったため予定していた期間の選考を行わずに締め切ることとなった。

基準8 財務

- 8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。
- 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。
- 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか。
- 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか。

【評価結果】 基準8を満たしている。

【優れた点】

- 中長期的に学校の財務基盤は盤石であり、予算・収支計画も有効かつ妥当なものである。
- 監事による監査だけでなく独立監査人による会計監査も行われ、その結果もホームページで公開している。
- 安心して進学できるようホームページで財務状況の情報公開を行っており、オープンキャンパスでも説明している。

基準9 法令等の順守

- 9-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。
- 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。
- 9-3 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。
- 9-4 自己評価結果を公開しているか。

【評価結果】 基準9を満たしている。

【優れた点】

- 専修学校設置基準はもちろん、職業実践専門課程・高等教育の修学新支援制度対象機関・専門実践職業訓練・愛玩動物看護師国家資格養成所の基準を遵守し、適正な運営がなされている。
- 個人情報保護に関する情報管理規定を設け、適切に管理している。
- 自己点検・評価は毎年教職員により適切に行われ、改善点があった場合は改善に向け積極的に取り組み、結果については学園のホームページで公開されている。

基準10 社会貢献・地域貢献

- 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。
- 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。
- 10-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。

【評価結果】 基準10を満たしている。

【優れた点】

- MGL学園附属動物高度医療センターの施設設備を利用して、地域の動物病院の獣医師や動物看護師を対象に、アメリカの専門医の資格を持った獣医師などのセミナーを定期的に行なっている。
- 地域にMRIを持った動物の高度医療を行える施設が無いので、地域の二次診療の受け入れを行っている。
- 学校動物を貸し出して、地域の獣医師による動物の鍼灸講座の協力を行なっている。
- 群馬県動物愛護センターで、保護動物のお世話やボランティアトリミング、子猫の人慣れ活動などのボランティアを行っている。
- 学内でピアサポーターを募集し、学生同士の支援に取り組んでいる。
- 専門実践教育訓練を開講し、対象者を受け入れている。

【更なる向上が期待される点】

- 老人福祉施設などへのボランティア派遣について
- ピアサポートの更なる充実

評価後記

現代の子供たちに「技術」を教えるという専門学校に抱えるリアルな難しさも評価を進める中で感じ取れました。また、愛玩動物看護師の国家資格化に伴う国家試験の結果も出始め、各学校同士比較されるという厳しい現実に対する対応の大変さも感じました。

最後に、厳しい競争の時代に MGL 学園の皆様もお体を壊さないようご自愛いただけたらと存じます。

高崎動物専門学校

令和5年度 学校関係者評価委員会

委員 佐山 等 (一般社団法人日本動物専門学校協会理事長)

委員 福岡千尋 (わんちゃんのとこやさんカルア代表)

委員 神宮和晃 (高崎動物専門学校 卒業生)